



タコにはどうして骨がないの

タコの先祖は4億年前に現れた

今から4億年くらい前、地球上に、カイやカタツムリなどの仲間である、まだ骨などをもっていない「なん体動物」とよばれる仲間が現れました。やがて、これらは、敵から身を守るため、かたい殻をもつようになりました。化石で残っているものとして、殻をつけたタコかイカのような、アンモナイトが有名です。これらが今のカイの先祖になりました。

殻をすてた仲間がタコやイカ

ところが、殻をつけたため、すばやく動くことがむずかしくなり、この殻をもつのをやめたグループが現れました。これが、タコやイカの仲間で、頭に足がくっついたような体をしているため、頭足類とよばれています。今いるオウムガイは、殻はもっていますが、この頭足類の仲間です。生きている化石とよばれているオウムガイは、タコやイカの、先祖の姿を残しているといえます。

殻をすてて、イカは海の中をすばやく泳いでくらし、タコは、長い足で、海底をはい回る生活をするようになりました。

貝殻を残しているタコもいる

タコやイカの仲間の中には、先祖がもっていた貝殻や貝殻の変形したものを、残しているものがあります。カイダコやフネダコは、船のような形のうすい貝殻をもっていて、うきのかわりに使っていたりします。

(監修・安部 義孝)

